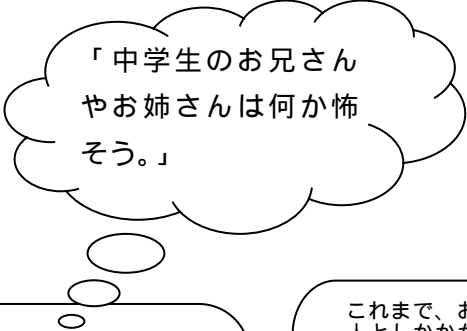


# お兄ちゃん、お姉ちゃんまた遊ぼうね

4.5歳児

目的 中学生との交流を通して、中学生のお兄ちゃんお姉ちゃんに親しみを感じ、いろいろな人とかかわることの楽しさを知る。  
中学生とのかかわりの中から「あこがれ」を抱く。

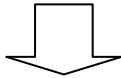


## 気づく

### お兄ちゃん、お姉ちゃんを知ろう

幼児は中学生が園に来ることをとても不安に思う。いきなり遊べなくても、周りの友だちが遊んでいる姿を見たり聞いたりしたことを通して、中学生のことを知る。

これまで、お家の人としかかかわったことのない子どもも不安感を取り除くため、無理に遊ばせるのではなく、友達の楽しそうな様子を感じ取らせる。そのことを通して、自ら不安感がなくなるようにする。



## 広げる・深める

### お兄ちゃんやお姉ちゃんと遊ぼう

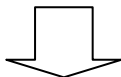
中学生に対する不安を取りのぞき、優しさを感じるように、活動の中で「おんぶ」や「だっこ」をしてもらったり、サッカーを一緒にしたりする。また一緒にお弁当を食べるなど親しくなる。

### 一緒にプールで遊ぼう

一緒にプールに入る。中学生に園児がいっぱい水をかけたり、触れ合っ  
て一緒に遊んだりする。中学生も幼児も互いに気持ちがとてもほぐれ、より親しみがもてるようになる。「大人と違う身近な存在」として中学生を慕う。

サッカー・木工活動・積木など、中学生の力が発揮しやすいことを活動の中に設定していく。そのことで中学生も自信がもてたり、幼児も「お兄ちゃん、お姉ちゃんってすごいな」と感じていけるようにする。  
中学生の保育実習の時間や職場体験活動を利用する。

中学生も水を恐がる幼児には手をつなぐ、ダイナミックに遊べる子には、水のかけ合いをして遊ぶなど、どうかかわればよいのかということがよくわかり、一緒に歓声をあげて楽しめる活動である。



## 計画する

### お兄ちゃん、お姉ちゃん、明日も来てくれるの？

1日目の帰りには「明日も遊べる？」と中学生に聞く幼児もたくさん出てくる。このようにして身近な人以外に心を開き、人とかかわることの心地よさを感じる。

一日目はあまりかかわれなかった幼児が、2日目は自らかかわっていきけるようになる。  
また中学生も「幼児はどんなことを喜ぶのかな」ということが分かり、より意味のある活動になっていく。

「お兄ちゃんが運動会に来てくれた。走るのすごく速いね！」

## 実践する

### 運動会に中学生を招待しよう。

中学生のすごいところはどこか表現しよう。  
中学生に見て欲しいところはどこか表現しよう。

#### <留意点>

- ・交流を通して、中学校とも連携がとれ、行事のときには園に来てもらう機会を作る。運動会に来てもらった時には中学生の種目を設け、みんなの前で走ってもらう。中学生の走る速さに驚いたり、自分達の種目を見てもらうことを喜ぶ園児の姿が見られる。幼児にとって中学生は「あこがれ」「モデル」となる存在である。

中学校の先生方とも連携し、一回の交流だけに終わらず、互いのいろいろな行事に参加して交流を続けていくことで、人とかかわることの喜びにつながっていく。



#### 【学習を進めるにあたって】

- ・幼児期には他者とのかかわりがとても大切である。大人と違う中学生との生活体験は、さまざまな人との接し方や他者とのかかわりの大きさに気づき、社会性や人間性を豊かにしてくれる。
- ・教師の交流を1週間単位で夏休みに実施している学校もある。教師の体験も大切にしたい。